

## 胃潰瘍のリスク要因について

門別診療所 富樫 雄三

夏が過ぎ、だんだん秋の気配を感じるようになってまいりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

胃潰瘍かもしれないから投薬しましょうかと獣医に勧められたことが馬に携わる方なら一度はあろうかと思えます。今回は、日常の馬管理にかかわる部分を中心に、いくつか知られている胃潰瘍のリスク要因を確認したいと思います。

### ・ストレスによる影響

離乳、輸送、せり上場、調教だけでなく放牧管理の変更(放牧地変更、単独で舎飼など)は馬にとってストレスを感じやすいイベントです。ストレスにより胃を保護する粘液などの分泌が減るため、胃が傷つきやすい状況になると言われています。

### ・解熱鎮痛剤による影響

馬でよく使用される解熱鎮痛剤(商品名:パナミン、ビュート)は胃を保護するとされるホルモンの分泌も抑えてしまうため、胃潰瘍のリスクを上げるといふ報告もあります。注射だけでなくペー  
スト薬も同様に注意が必要です。

### ・濃厚飼料による影響

濃厚飼料に含まれる炭水化物が消化管内の細菌に分解されると酸に変わります。それが胃の中で起こると酸性が強くなるため胃が傷つく環境になりやすいです。

### ・粗飼料の採食時間の影響

本来の馬の食生活では1日16時間程度が採食に充てられています。胃の中に入ってくる植物(粗飼料)を消化するために、胃酸が絶えず分泌されているよう馬は進化してきました。粗飼料自体、またそれを咀嚼するときに出る唾液がアルカリ性であるので胃酸を中和して適切な状態が保たれます。しかし、人に飼養されていると採食時間が限られていることが多くなります。胃が空になった時間が長くと胃酸のため胃自体が傷つきやすい状況が長くなりがちです。

### ・馬の胃の約1/3は粘液による保護を受けていないこと

胃では食物中のタンパク質の分解が行われています。タンパク質は馬の体を構成する成分のひとつでもあるので、胃自身が傷つかないよう胃の出口側2/3は粘液などで保護されています。逆に、入り口側1/3は保護されておらず、この部分はもともと胃酸で傷つきやすい部分となっています。

リスク要因ひとつでは胃潰瘍を必ず引き起こすと言えるものではないですが、複数の要因が集まると(例:運動器疾患のため、鎮痛薬使用して単独で舎飼)胃潰瘍を発症しやすい状況になりがちです。飼養馬が複数のリスク要因を抱えていないか確認してリスク要因を減らす管理(例:牧草のないパドックには粗飼料を置いておく)をするのが胃潰瘍予防への近道です。

最後までお読みいただきありがとうございます